

沖縄県本部町親善交流団が来町

「友好の町」沖縄県本部町との間で平成3年から毎年行われている親善交流事業として、本部町から19名の交流団の皆さん（小学5年生15名、随行者4名）が、1月28日から31日までの日程で本町を訪れ、町内の児童やホームステイ受入家族などと交流を深め、白銀の大地「冬の北海道」を満喫しました。

1日目（1月28日）

本町に到着

早朝に本部町を出発した交流団の皆さんは、那覇空港から羽田空港を経由して新千歳空港に到着後、JRを乗り継いで本町に到着し、辺り一面に積もった雪に感激した様子でした。

歓迎会

午後6時からみなくろで行われた歓迎会では、池部町長の歓迎挨拶の後、交流団の具志堅団長から、「交流事業を通して、南富良野町との友好が一層深まることを願っています。」と挨拶

がありました。本部町の子ども達は「南富良野町の児童の皆さんとたくさん交流したいです。」など一人ひとり自己紹介をした後、全員で本部町歌などを元気に披露しました。その後、ホームステイ受入家族と食事しながら楽しく交流を深めていました。

2日目（1月29日）

幾寅小学校訪問

歓迎会では、全校児童の拍手の中、体育館に入場した交流団の皆さんは、本部町の紹介や本部首頭を披

露、幾寅小学校の全校児童も合唱を披露しました。5年生とは教室で、北海道についてのクイズや地図を使ったゲーム、名刺交換などで交流した後、外に出てソリやチューブすべりを楽しみました。お昼には、一緒に給食を取りながら交流を深めました。

犬ぞり体験

午後からは、どんころ野外学校へ移動して犬ぞりを体験。2人ずつソリに乗り、合図をすると犬が勢いよくソリを引っ張り、大きな歓声を上げて楽しんでいました。

カーリング体験

空知川スポーツリンクスでは、落合小学校と北落合小学校の児童と一緒にカーリングに挑戦。初めての氷上に悪戦苦闘しながらも、地元の児童に指導を受けながら笑顔でストーンを投げ

3日目（1月30日）

ワカサギ釣りに挑戦

早朝から、かなやま湖でワカサギ釣りに挑戦。今回の滞在中一番の冷え込みの中、寒さに負けず、次々とワカサギを釣り上げ、子ども達は大喜び。釣れたワカサギはその場で天ぷらにして皆で味わいました。

スキー体験

スキー場では、金山小学校と下金山小学校の児童と一緒に初めてのスキーを体験。グループごとに地元児童から指導を受け、本部町の児童全員が滑れるようになりました。午後からは、第1リフトの終点まで挑戦する児童もいて、思う存分スキーを楽しんでいました。

ホームステイ

この日の夜は、ホームステイ先で、北海道の家庭料理や冬の暮らしを体験し、交流を深めました。

4日目（1月31日）

ホームステイ先の家族に見送られて本町を離れた交流団の皆さんは、旭川市の旭山動物園へ向かいました。

旭山動物園では、初めて間近で見られるほっきょくまやペンギンに「かわいい」と歓声を上げながら、満面の笑顔で見学していました。午後から札幌に移動してテレビ塔見学や地下鉄乗車を体験。夕食は、ジンギスカンに舌つつみをうちました。2月1日、交流団の皆さん

本部町の児童へ雪をプレゼント

本部町の児童に雪に触れてもらおうと、2600キロ離れた本部町に雪のプレゼントが贈られました。2月18日、本部町立上本部小学校と友好の証を交わしている幾寅小学校で、5年生18名が、学校前に積もった雪をスコップで発泡スチロールの箱に詰め、上本部小学校へ贈りました。2月22日、上本部小学校

に届いた雪は、早速開封され、児童の皆さんが白銀の雪に触って大喜びのようでした。大城優希さん（6年）は、「初めて雪に触れたけど、ふわふわしてとても気持ちよかったです。」と話し、皆で雪合戦などをして楽しんでます。気温20度を超える沖縄で雪に触れることができて、児童の皆さんは大変感激していました。



幾寅小5年生の皆さんが雪を箱に詰めました



雪を触って大喜びの上本部小学校の皆さん